

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 L 宮島、保木本
2. 山域／ルート 台高・父ヶ谷本谷
3. 交通手段 自家用車

4. 行動記録

<入山日 2015 年 5 月 17 日>

5/16(土) 20:00 尼崎発— 24:00 番屋手前で車中泊

5/17(日) 6:00 起床出発—鎌滝近く駐車-7:20 発-7:45 鎌滝上入溪-8:15 2条斜滝② 9:30-11:00 岩間 3m⑤-11:00 休憩 11:30-12:09 サンザイ谷・嘉平山谷出合い-12:30 一ノ壺-13:35 牛鬼淵-14:05 二俣-14:30 堰堤上 (遡行終了)-父ヶ谷林道歩く-15:40 駐車場戻る-16:00-帰神-20:30 アマ着

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

・最初の 2 条斜滝 6m②で右岸の巻き方が分からず。少し戻っては大きく高巻こうとしたが不可で短い懸垂 2 ピッチでもう一度元に戻る。ようやく右岸を少しだけ泳いでから岩棚に登れば良いことが判明して、ザイルで一応確保して突破。ここで 1 時間半を費やしてしまう。

・時間的な問題とシーズン始めの沢としてはお腹いっぱいの内容だったので、二俣⑦で北谷には行かずに南谷から林道に抜けた。

b) 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか？

特になし。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

特になし。

6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

<下山に関して>

・林道は下降地点①の少し上部で橋がまるごと土砂崩れで流されており、車は通行できない。要は吉岡本では車を二俣付近まで回送しておく・・・と書いてあるが不可。

・吉岡本の記録から丸 10 年。他の沢でもそうだが、林道・山道等、特に下山路が記録とは異なって荒れていることが多いので注意が必要。

7. 山行記録

朝 6:00 物音で起きる。鮎釣りの車がたくさん来ており、準備の物音で起きる。

車 1 台しか通れず、しかも 1 台が渡り終わるまでは走ってはいけないという味のある赤い鉄筋の橋を渡って右手が父ヶ谷林道。

父ヶ谷林道は未舗装路、ボロのセダンで何回も底を落石ですった。だいぶ進むと林業小屋跡？のコンクリートの広場がありそこに駐車。GPS で確認すると鎌滝は少し行き過ぎていたようで、取り付きまで歩いて戻る。

谷があり、その左手を下降。うまいことに鎌滝の上に出た。

最初の 2 条斜滝 6m②で右岸の巻き方が分からず。少し戻っては大きく高巻こうとしたが不可で短い懸垂 2 ピッチでもう一度元に戻る。その後、ようやく右岸を少しだけ泳いでから岩棚に登れば良いことが判明して、ザイルで一応確保して突破。ここで 1 時間半を費やしてしまう。

沢が冷たく濡れるのが嫌で引き返したのがまずかった。もう少し踏み込めば良かった。

もたもたしていたら後続に 4 人組が来た。先頭の方は泳いで正面突破していた。明らかに沢屋で慣れている。入渓度が低い(記録もあまりない) 沢なのにこのまだ水の冷たい 5 月に他パーティーと出会ったことに驚く。

その後は 2 回泳いで突破した。最初が岩間 3m④で最後が岩間 3m⑤か。どちらも結構手ごわかった。後続は最初の岩間では右岸を巻いていた。特に二つ目は釜から登るのにつるつるで苦しく、その上も滝間に挟まっている木に登らないと突破できない(このときだけ動画撮ってましたが、後から見たら結構苦労してました)。④と⑤間の岩間 3m を突破して登ったところで振り返ったら上部にトポ通りに朽ちた吊り橋があった。本当に朽ちていて絶対に渡れない。

その後はトポどおり平凡。途中で大休止する。防水袋内部にまで入り込んだ水を出す。重いわけだ。で、30 分休んだがまだ気温も高くないからか体が暖まらないので先に進む。

この先がハイライト。一応はトポ通りか。一の壺は左岸を高巻く。降り口は荒れている、懸垂か迷ったがうまいこと倒木を持って後ろ向きに降りられた。完全に崩壊してる。

二の壺は写真とまったく同じ！！ザイルを出して左岸を直登(沢ナビ通り)。結構足も手もスタンスは小さくていやらしい。残置ハーケンなどない。途中で 1 箇所カムでランニングを取る。登りきったら小さな釜を泳いで右岸の小河原に転じる。ここからまた左岸に転じてホールドも小さくて、スタンスもわずかな斜上クラックを登る。カムが入る場所が 1 箇所あったが、つるつるで悪くて緊張した。沢にカムは必須だ。リンクカム最高です。

そこを過ぎるとすぐに牛鬼淵。名前が付いているだけあって立派だった。登れる対象ではなく左岸を高まいて、懸垂で降りる。(大した高さではないが、懸垂でないと無理。ボロいロープがかかっていたが危険)

ここを越えるとすぐに二俣⑦。

遡行終了と思いきや、最後にもう一度泳ぎ。綺麗な緑色の大釜。泳がないと突破できない。3m 滝は沢ナビでは突破と書いてあったので挑戦したが、つつつで諦めた。で、吉岡本通りに左岸を登ると堰堤の上に出た。木橋はありませんでした。ようやく遡行終了。

林道を下るとサンザイ谷のトンネルで地元三重の5人組のベテランの方と出会う。なんでも鹹谷高に登ってきたそうだ。登山地図には道など一つもないがいろいろと道があり登れるそうだ。

林道は荒れ果てていた。それもそのはずで、駐車場所から少し登った地点でコンクリートの橋がごっそりなくなっていた。車が通れるはずもないので大石がごろごろと転がっている。1時間弱歩いて車に戻る。

泳ぎあり（3～4回）、登攀あり、懸垂ありで、高度がある登りはないが、結構充実した沢でした。体力以外の能力はそこそこいるので、初級というほどには易しくない。

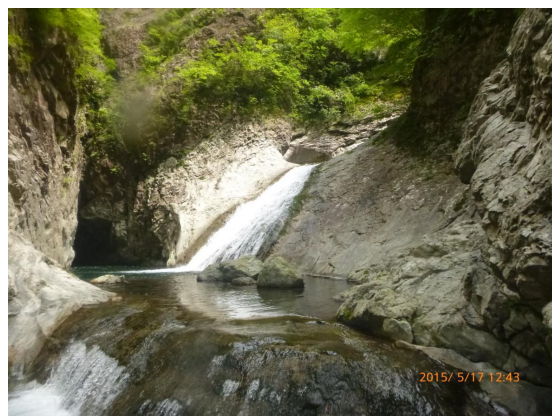
比良のフレイク上の岩とは全然異なっていて、とにかくどこもかしこもつつつで登るのは難しい。堂倉のほうが登りやすい。(前鬼とかも同じ岩質だろう、なんて岩石だ?)

帰りは国道422号の峠道を越えて、奥香肌峡のスメールで温泉700円に入って帰宅。

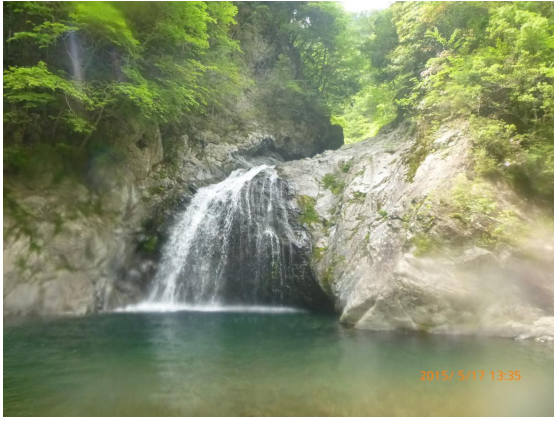
なるほど、このスメールを起点に唐谷側や中の谷に行けるのか。迷岳とともに興味深い。



岩間 3m⑤



二ノ壺



牛鬼淵



大釜も泳ぎで突破



崩壊した橋

報告者氏名 宮島 2015年5月21日